

質問者  
松井重樹議員

## たつの市の自立戦略は

## 今日的農地解放から

市内居住人口の増加を本当に望んでいるのか。

もちろん、望んでい

る。人口は、自治体活力のバロメーターだから。

しかし、現実は市内ほとんどの地域で減少。

歯止めをかけるべく

都市計画マスターPLANに基づき都市基盤整備を進め、地縁者住宅など県の特別指定区域メニューの活用に取り組んでいる。

その取り組み方で歯止めが利かないからこそ現実。(1)列島大動脈の国道・鉄路が市を横断する地政学的価値、(2)点在市街地の連続化。この2点への直視と認識が出発点だとこれまでから指摘。ところで、答弁に出た

都市計画マスターPLAN、そのものになる「市町村基本構想」に関し、先ご

ろ地方自治法が改正されたが、知っているか。

知らない。

「策定義務が撤廃」された。当市でも、おつつけ、それに関する条例

等の改正に直面する。さて、その意味するものは。

答 公開、しかし傍聴参加のほとんどは市職員。

答 地方自立の一環かと。その通り。地方自治体運営の自由度拡大だ。

一方で市民に自立を促しながら、他方で明日の都市計画には独自の考え方を持たずにこれまでの国からの指示を県からと言

い換えるだけの自己矛盾。

また、まちづくりと都

市計画に関し、市街化調整区域の土地戦略見直しを図る岡山県笠岡市を3月定例会で例にあげたが、

台風12号の教訓

都市計画マスターPLANに基づき都市基盤整備を進め、地縁者住宅など県の特別指定区域メニューの活用に取り組んでいる。

その取り組み方で歯止めが利かないからこそ現実。(1)列島大動脈の国道・鉄路が市を横断する地政学的価値、(2)点在市街地の連続化。この2点への直視と認識が出発点だとこれまでから指摘。ところで、答弁に出た

都市計画マスターPLAN、そのものになる「市町村基本構想」に関し、先ご

答 県の方針、県との調整で進めていきたい。

整で進めていきたい。

市政診断の醍醐味は

醍醐味は、俎上にのぼる選択肢それぞれの比較深度から生まれる。

答 公開、しかし傍聴参

加のほとんどは市職員。

事業実施状況の説明に偏り、課題の浮き立たせ方に課題があつたと推察。

一方で市民に自立を促しながら、他方で明日の都市計画には独自の考え方を持たずにこれまでの国からの指示を県からと言

い換えるだけの自己矛盾。

また、まちづくりと都

市計画に関し、市街化調整区域の土地戦略見直しを図る岡山県笠岡市を3月定例会で例にあげたが、

台風12号の教訓

都市計画マスターPLANに基づき都市基盤整備を進め、地縁者住宅など県の特別指定区域メニューの活用に取り組んでいる。

その取り組み方で歯止めが利かないからこそ現実。(1)列島大動脈の国道・鉄路が市を横断する地政学的価値、(2)点在市街地の連続化。この2点への直視と認識が出発点だとこれまでから指摘。ところで、答弁に出た

都市計画マスターPLAN、そのものになる「市町村基本構想」に関し、先ご

水対策事業が事業認定されていて。ところが、今年度予算カットされてしまう。行政が十分に検討したことで地域の治水に影響が出ないのか。

宮内浸水対策事業について、平成22年度に実施設計が完了し、本年3月に関係機関に説明をした。一方、宮内川の放流先である栗栖川の統合井堰工事が平成24年度に完了する際、河床が現在より1メートル下がる予定であり、一定程度の浸水被害軽減が期待できる。

答 宮内浸水対策事業については、平成22年度に実施設計が完了し、本年3月に関係機関に説明をした。一方、宮内川の放流先である栗栖川の統合井堰工事が平成24年度に完了する際、河床が現在より1メートル下がる予定であり、一定程度の浸水被害軽減が期待できる。

ついては、井堰完成後、状況を見て工事着手時期を検討する。

**「石油を作る藻」が救世主になるか**

オーランチオキトリウムという海の藻が発見された。光合成をせず生活排水などの有機物を吸収して炭化水素（石油）を生成する。結果的に下水処理経費の削減にも繋がる「究極の循環システム」だ。本市において、皮革排水処理施設においてこの取り組みが出来ないか。

答 宮内浸水対策事業については、平成22年度に実施設計が完了し、本年3月に関係機関に説明をした。一方、宮内川の放流先である栗栖川の統合井堰工事が平成24年度に完了する際、河床が現在より1メートル下がる予定であり、一定程度の浸水被害軽減が期待できる。



栗栖川と旧新宮高校

ついては、井堰完成後、状況を見て工事着手時期を検討する。